

# GUARDIANSUITE V4.1.01 for Linux リリースノート

GUARDIANSUITE for Linux V4.1.00 から GUARDIANSUITE for Linux V4.1.01 修正パッチにおいて、以下の機能追加および修正変更がなされました。

## 1. 修正

### (1) バッファオーバーフローにより SMTP 接続が切断される不具合

「キーワード検査」、「MIME タイプ検査」の検査結果件数が大量な場合、4095 バイトまでに文字数制限して出力するべき所が正しく実装されておらず、前段 MTA からの SMTP 接続を受け付けているプロセスが配送ログを出力する際、バッファオーバーフローが発生し、以下の現象が発生する不具合があり、これを修正致しました。

- 配送ログ出力が正しく行われないことがある。
- 統計情報表示の「メール受信者アドレス別利用状況」および「メール宛先ドメイン別利用状況」にキーワード(MIME)検査結果が表示されることがある。
- 前段MTAからのSMTP接続を強制的に切断してしまうことがある。  
その結果、メールが前段MTAによってエラーと取り扱われます。

### (2) キーワードセット、MIME タイプセットにおいて、セットを削除できない不具合

登録されているキーワードセット、MIME タイプセットのどれかが(1 つも)検査配送ルールで利用されていない場合において、削除できない不具合があり、これを修正致しました。

### (3) バックアップに関する不具合

管理サーバーのメールアーカイブ保存ディレクトリが未設定である場合、スケジューラーからのバックアップが失敗するという不具合があり、これを修正致しました。

### (4) サポートスクリプトによる利用者管理アカウントの追加、変更、削除の不具合

サポートスクリプト/opt/Guardian/Admin/support/usr\_passwd を実行すると、エラーが出力される不具合があり、これを修正致しました。

### (5) メール閲覧より CSV ダウンロードを行うと、CSV ファイルの「添付有無」カラムが欠落してしまう不具合

不正なフォーマット等の理由で解析できなかったメールが保存されている場合、メールの閲覧機能にて結果の CSV ダウンロードを行うと、CSV ファイルの「添付有無」カラムが欠落してしまう不具合があり、これを修正致しました。

### (6) 検査・配送ルールの P\_XX の条件式に関する不具合

検査・配送ルールにおける P\_付きと P\_無しの条件指定子で、それ以外の部分(比較演算子、式の右辺)が等価な式をルール中に使用している場合、後方にあるものの条件の判定結果が前方のものと等価になってしまう不具合があり、これを修正致しました。

(7) 検査・配送ルールの数値条件、ADDRESS 関数に関する不具合

数値条件で ADDRESS(ERCPT)のように指定すると、メールアドレスのカウント処理において SMTP セッション中に RSET コマンドによる初期化が実行され、正しくメールアドレスをカウントできない不具合があり、これを修正致しました。

(8) メール閲覧に関する不具合

各閲覧画面において以下のメール総数が 3 万以上で、かつ、表示件数を 3 万件以上に指定し表示させると、状態項目の内容が欠落する不具合があり、これを修正致しました。

※総数、表示件数は目安になります。

(9) 監査機能の設定保存機能に関する不具合

各種設定変更時に設定変更アーカイブを保存します(その機能を ON にしていた場合)が、設定内容において行移動だけの変更時である場合に、設定変更アーカイブが保存されない不具合があり、これを修正致しました。

(10) 統計情報、統計情報グラフに関する不具合

各閲覧画面において、サイズ条件に「+」のみ(添付あり)、「-」のみ(添付なし)が指定できてしまう不具合があり、これを修正致しました。

(11) 操作ログリストア時のワーニング表示に関する不具合

操作ログをリストアした場合、PostgreSQL のシステムログにワーニングが出力される不具合があり、これを修正致しました。

(12) バックアップ、リストアに関する不具合

バックアップディレクトリ、リストアディレクトリに NFS マウント領域を指定していた場合、マウント時の指定ブロックサイズによっては、その空容量を正しく算出できず、実際に十分な空容量があったとしても、ディスクバックアップまたはリストアができない不具合があり、これを修正致しました。

(13) テープバックアップ処理に関する不具合

テープへのバックアップ処理実行時、対象とする期間が長いとバックアップに失敗する不具合が

あり、これを修正致しました。

(14) 保存メール、保留メールの本文ダウンロードに関する不具合

メール本文ダウンロード時の改行コード変換で、改行コードを重複して付与してしまう不具合があり、これを修正致しました。

(15) 個人情報検査に関する不具合

個人情報検査機能を使用している環境で、NULL 文字を含み、かつ ASCII と判定されるデータ(eps 等)に対して個人情報検査を実施している場合、検査に長時間かかり、メールが送信されない場合がある不具合があり、これを修正致しました。

(16) ログディレクトリ作成時に関する不具合

同時に複数の GUARDIANWALL のプロセスからのログで、新規に年、月のディレクトリを作成する場合に、競合状態が発生する場合があります。競合状態が発生すると、後者のプロセスからのログ記録がされない不具合があり、これを修正致しました。

(17) URLDB の異常状態に関する不具合

URLDB が[すべてのカテゴリ]への問合せに対して、以下のようなエラーを出力し、検査サーバーを再起動するまで回復しない不具合があり、これを修正致しました。

共通 - 検査サーバー管理 - 状況確認 - システムログ

[error] [ERROR(72)] Invalid Status: too large
---

(18) 認証結果キャッシュ機能に関する不具合

認証結果キャッシュ機能に、長時間稼動により WEB アクセスする際に、毎回認証が求められる状態となる不具合があり、これを修正致しました。

(19) ディスク使用量に関する不具合

MSP キューラベルの表示において MSP 名が表示されない不具合、MSP キューのディスク使用率が 90%超の場合、ディスク使用量が正しく表示されない不具合があり、これを修正致しました。

(20) リストアデータのカレンダー表示に関する不具合

リストアデータカレンダーにおいて、月最終日にリストアデータがあるにも関わらず、無しと表示されてしまう不具合があり、これを修正致しました。

(21) インストーラに関する不具合

全文検索 Version2.0 系からのアップグレードを実施した場合、以下の現象が発生する不具合があり、これを修正致しました。

- ログ保存ディレクトリがデフォルト (/opt/Guardian/WALL/logs/) の場合  
/var/opt/Guardian/Admin/mail/にデータが移動されてしまいます。  
移動先の空容量が足りないとアップグレードが途中で失敗してしまいます。  
※ログ保存ディレクトリが変更されている場合は、データの移動はありません。  
設定が引き継がれます。
- 検索履歴ディレクトリがデフォルト (/opt/Guardian/WALL/history/) の場合  
/opt/Guardian/Admin/history/にデータが移動されてしまいます。  
移動先の空容量が足りないとアップグレードが途中で失敗してしまいます。  
※検索履歴ディレクトリが変更されている場合は、データの移動はありません。  
設定が引き継がれます。

(22) /server-status, /cache-status の無効化

下記の URL にアクセスすることで、任意のユーザーがサーバー情報を参照することが可能となっていたため、利用不可となるように修正致しました。

http://<WG検査ホスト>:<proxy\_port>/server-status  
http://<WG検査ホスト>:<proxy\_port>/cache-status

## 2. 機能追加（対象機能: WEBGUARDIAN）

### (1) 応答バッファを flush するオプションの追加

apache(mod\_proxy)は、上位サーバからの応答を 8000 バイトまでバッファする仕様となっておりますが、ウェブアプリケーションによってはクライアントへの即時の応答を必要とする場合がございます。そのため、バッファを flush するオプションを追加致しました。

```
<設定ファイル>
/opt/Guardian/WG/conf/httpd.conf
<設定値>
ProxyHttpFlushBuffer On|Off
デフォルト: Off
```

### (2) FTP サーバとの通信に関するオプションの追加

ftp over HTTP 時の、mod\_proxy と FTP サーバとのデータコネクション開設の動作を制御するオプションを追加致しました。

```
<設定ファイル>
/opt/Guardian/WG/conf/httpd.conf
<設定値>
・データコネクション開設に EPSV コマンドを使用する。
ProxyFtpEnableEPSV On|Off
デフォルト: On
・データコネクション開設にPASVコマンドを使用する。
ProxyFtpEnablePASV On|Off
デフォルト: On
・robustの場合、データコネクション開設でエラーが発生した際、
できるだけ別のコマンドを試す。
ProxyFtpDataConnectionSetup robust|default
デフォルト: default
```

### (3) Host ヘッダーのない HTTP/1.1 リクエストをエラーとしないオプションの追加

Host ヘッダのない HTTP/1.1 リクエストをエラーとせず、処理を続行するオプションを追加致しました。

```
<設定ファイル>
/opt/Guardian/WG/conf/httpd.conf
<設定値>
HostHeaderCheck On|Off
デフォルト: On
```

### 3. 機能変更

#### (1) リストア(テープ)時のデータ互換オプションの追加

Solaris 版の管理画面からテープへバックアップしたデータを、Linux 版の管理画面を利用してリストアすることが出来ない不具合があり、オプションを追加修正致しました。

<設定ファイル>

/opt/Guardian/Admin/etc/admin/admin.conf

<設定値>

- ・Solarisで取得のテープをLinuxでリストアする場合。

[CGI]

Backup\_sun\_compat = true

- ・さらに、読み出し時のブロックサイズを指定する必要がある場合。

[CGI]

Backup\_block\_size = <integer>

※<integer>はサイズ(0以上の整数)を指定する。

以上